

第2回森と水の源流館授業づくりセミナー概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年7月29日(月)13時～16時
- ◇会場 森と水の源流館
- ◇参加者 尾上・木村・小橋・上西・成瀬(源流館)、奥田(地域起こし協力隊)、
中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)、島(郡山西小)、川崎(川上小)
中澤(奈良教育大学) 計10名

◇内容

1. 「SDGs ESDの推進における博物館等の活用例」尾上氏(龍谷大学における免許状更新講習)

(1) ユニバーサルデザイン

海洋公園(大泉緑地)での手すりの設置に関して110センチの手すり車いす利用者には公園に行くことにおいてはユニバーサルデザインだが、景色が見れない。

車いすの目の高さを空間にする

(手すりを高く)。

高さのある花壇

アメリカの軍用車いすなら、水辺まで近寄ることができる

久宝寺緑地：健康遊具にボランティアの配置・ボランティアの養成

浜寺公園でボランティアの養成に取り組む

公園のデザイン → 人材の育成へ

- ・現場の人(当事者)の声を聞くことの大切さに気付く
- ・自分がやってきたことをどのような額縁に入れて意義づけるか



(2) 水源地の村づくり×森と水の源流館の存在意義×ESDの視点で語る → 地域資源の教材化 「持続可能な社会をつくる」それを担う人材の育成というテーマに、森と水の源流館ではどうかかわるか?

1996年 川上宣言

2000年 水源地の森・原生林380haの買収 その後3年間にわたって740ha

2012年 森を公有化 水源守る(中国による水源地の買収という傾向が背景に)

かわかみらいふ 移動販売車、ガソリンスタンドの経営、

吉野かわかみ社中 林業の六次産業化 500年後の社会を見据えて

やまいき市 製品の販売

ユネスコエコパーク、日本遺産、林業遺産

平成26年度から24世帯が移住



源流館のテーマの一つ、「流域連携」(吉野川・紀の川)「紀の川じるし」・おかげ米運動
「源流学」(源流の人や自然に学ぶ)
森林環境教育の支援活動(木を伐ることはいいこと?悪いこと?)

産業と技術の紹介等

吉野川分水の役割の発信(いい水がつくるおいしいお米)

「水質」で語れば「悪者さがし」「恵み」で語れば「感謝の交流」(村民と下流の人々の出会いの場の創設)

紀の川じるしでの奈良と和歌山の先生の合同研修会の開催

森と水の源流館授業づくりセミナー

川上村の取組・地域資源にESDの額縁をつけることで、教員との距離感が縮まった。

地域の資源(自然・人)と先生をつなぐ

地域への愛着・地域を大切に作る心が子どもにも巻き込まれた大人にも育つ。

(持続可能な自治体の定義)

地域資源を用いたESDをつくることで資質能力を育成する(ここでの資質能力はOECDのキーコンピテンシーにもつながる、つまり世界標準の学力の育成)。

2. 授業構想案の検討

(1) 小学3年生・理科「こん虫のかんさつ」: 島先生(郡山西小)



- ①校庭でのこん虫の観察・古山さんによる観察カード作成指導
 - ②こん虫のすみかへの着目・校庭の地図上の観察カードを貼る
 - ③こん虫の食べ物への着目 → 生き物どうしのつながりへ
「生き物の関係を図にあらわす」
- 最近の子ども達には昆虫が苦手な子が多くなっている。苦手なのは、親の影響ではないか。
- 子どものこん虫への関心が低くなってきている。夏休みの宿題でもこん虫標本づくりに取り組む子が少ない。

○こん虫に対するハードルを下げる必要があるだろう。

- ・先生自身が、教室で楽しそうにこん虫を育てる。
- ・テレビ映像などを使って、こん虫への関心を高める。
- ・標本の活用

(2) 小学5年生・総合: 川崎先生(川上小)

①今年伊勢湾台風から60年目にあたる。当時の被災について、語ることが出来る人が少なくなっている。

②被災状況について、当時の写真資料を活用する。

③大滝ダム・学べる防災ステーションを活用する。豪雨体験コーナーでは、伊勢湾台風クラスの大雨を体験できる。その際、児童は雨合羽を着用するが、教員は傘で大雨を防いでみる。きっと傘はこわれる。そのことで、大雨の威力を実感できる。

④かみせタイムにおいて、防災・減災について村民に伝えたい。

3. 海洋プラスチックに関して：中澤敦子（近畿地方E S D活動支援センター）

- ・海に生きる魚よりも海洋プラスチックごみの量の方が多くなるかもしれない。
- ・プラスチックは、安定的であるため、いつまでもなくなるならない。
- ・海洋プラスチックが、紫外線や波によって破壊され、細かくなる。マイクロプラスチック化
- ・1960年～1970年に、「夢の油」として開発されたPCB。

安定的でなくなる。燃やすとダイオキシンを発生する。

カネミ油症事件：ダイオキシン類による大規模な健康被害が発生。

PCBの製造が世界的に禁止されるが、すでに120万トンが製造されていた。

- ・PCBは、親油性があり、マイクロプラスチックに吸着される傾向がある。
- ・PCBを含んだマイクロプラスチックを海洋生物が摂取する。生物濃縮によって、人間がPCBを摂取する可能性もある。
- ・マイクロプラスチックの発生源は、我々の生活である。プラスチックの使用法のほとんどは、包装であり、我々が求めているものではないが、使用してしまっている。
- ・プラスチック製品の使用量を減らすこと（リデュース）。
- ・きちんと分別し、リユース、リサイクルを徹底すること。
- ・現在は、海外に輸出している。輸出されたプラスチックにごみが混入しており、現地ではそれを分別せずに廃棄している。それが河川を通じて、海に流れ込んでいる。
- ・国内で発生したごみは、国内で処理するのが当たり前であろう。

